

令和7年産水稻現地指導会（1回目）資料

令和7年6月7・8日

J Aしまね斐川地区本部 営農第一課

1.生育状況

1) 育苗

育苗期間は、気温の高低差が激しく温度管理が難しくなりました。また、低温時に播種したところでは、**平年より出芽までに時間を要しました。**

急激な気温上昇により「ヤケ苗」や、ハウス内が高温多湿となり「**苗立枯細菌病**」、一部のハウスでは「**ばか苗病**」が発生しました。

2) 本田生育

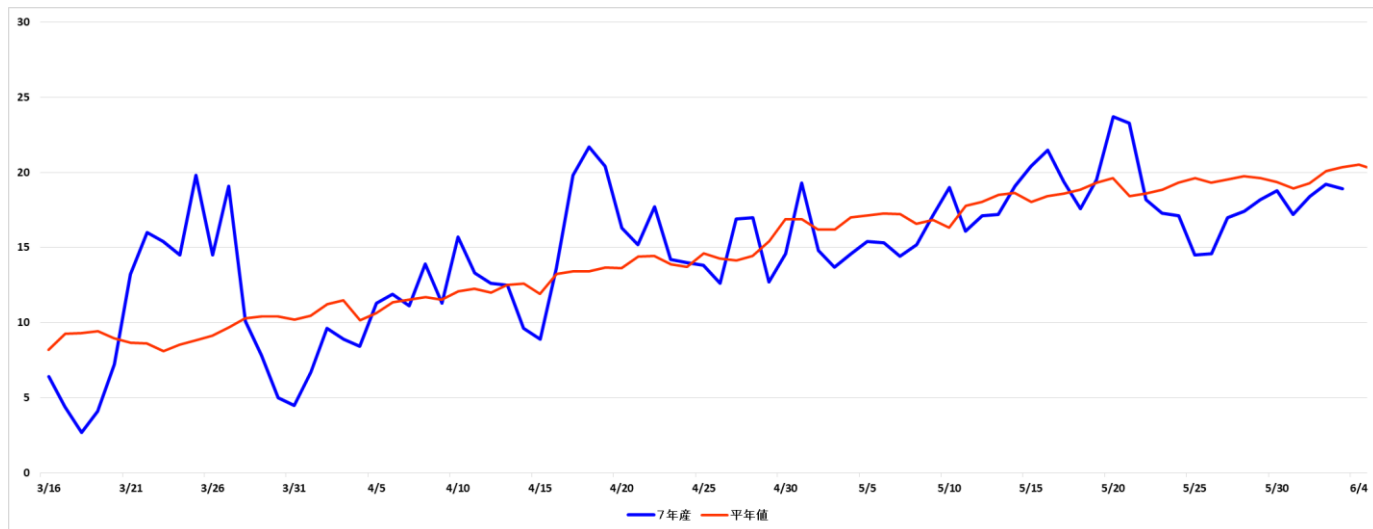
4月下旬から5月上中旬にかけて移植したほ場では、**風の強い日が多く、低温の日も**あったことから**風傷み・植傷み**が発生したほ場が多く見受けられました。

5月は平年に比べ気温の低い日が多く、特に5月下旬は低温で推移したため、**活着はやや遅れ、茎数は少なく生育は緩慢**になっています。

また、5月中旬以降気温の上昇と日照時間が多くなったことから**藻類、表層剥離**や一部**ワキ（ガス害）**が発生しているほ場があります。そのようなほ場では、**一旦落・間断かん水**等により、**ガス抜き・酸素供給**を行い、**根の健全化**を図りましょう。

「つや姫」「コシヒカリ」は**分けつ盛期**となります。梅雨時期の管理となりますが、**水管理**による**分けつ促進**や**適期に中干し**を実施するなど、**有効茎確保**に努めましょう。

令和7年産稲作期間 斐川平均気温推移（3月中旬～）



※データ観測地点：斐川 ※平年値：2003～2024年の斐川の平均

2.生育調査結果

品種名	移植日	調査日	調査地点	株/坪 (株間)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	※葉色 (葉色板)	葉齢
つや姫	4/25	6/4 (+40)	伊波野	45 株 (24 cm)	11.5	159.7	28.0	39.0 (4.9)	8.2
つや姫	5/1	6/4 (+34)	出東	50 株 (22 cm)	9.0	136.0	24.7	38.4 (4.8)	6.6
つや姫	5/3	6/4 (+32)	出東	50 株 (21 cm)	6.1	96.8	19.8	37.3 (4.6)	6.5
つや姫	5/12	6/4 (+23)	出東	45 株 (24 cm)	6.6	91.0	24.6	33.8 (3.9)	5.7
コシヒカリ	5/18	6/4 (+17)	出東	50 株 (22 cm)	5.4	81.8	24.2	32.9 (3.7)	4.7
きぬむすめ	5/17	6/4 (+18)	出東	50 株 (21 cm)	3.9	61.9	22.1	28.5 (2.8)	4.8
きぬむすめ	5/26	—	莊原	50 株 (21 cm)	—	—	—	—	—
きぬむすめ	5/26	—	伊波野	50 株 (21 cm)	—	—	—	—	—

※葉緑素計による値: 平均値 × 0.2 - 2.9 = 葉色板の数値

【 つ や 姫 】

草丈、葉色、葉齢は平年並み。

茎数は平年に比べ少ない。ほ場によって藻類の発生により生育抑制を受けている。

平年に比べ、中干し開始時期が遅れる見込み。茎数を確認し中干しを実施する。

【 コ シ ヒ カ リ 】

草丈、葉色、葉齢は平年並み。

茎数は平年に比べ少ない。

平年に比べ、中干し開始時期が遅れる見込み。茎数を確認し中干しを実施する。

【 き ん む す め 】

葉齢、草丈は平年並み、茎数は少ない。

これから茎数が増加してくるので中干しの時期を逃さないようにする。

3.水管理

○ワキ（土壌還元）対策

稲わらや有機物を分解する微生物の活動により酸素が消費され、「ワキ」と呼ばれるガスが発生します。ワキの程度が強いと土壌中の酸素が少ない還元状態となります。

還元が進行して強還元状態になった水田では、根に有害な硫化水素や温室効果ガスのメタンが発生します。

ワキが発生した水田では、足を踏み入れると気泡が生じ、土を手にとってにおいを嗅ぐと温泉の硫黄のようなにおいがします。また、水稻の葉身に下葉枯れや赤枯れ症状がみられます。

下表を参考に田の状況を確認し、根の健全化を図りましょう。

表：ワキの程度区分と対策

ワキの程度	田の状況	生育への影響	対策
稀	水田に足を踏み入れても気泡の発生なし	なし	—
少	水田に足を踏み込むとわずかに気泡の発生が見られる	なし	—
中	水田に足を踏み込むと気泡の発生が多い	根の活力低下	用水の入れ替え
多	水田に足を踏み込むと盛んに気泡を発生する	根張り不良	軽い落水と用水の入れ替え
甚	晴天時自然に気泡を発生し音が聞こえる。歩くと著しく気泡を発生	根の伸長阻害 地上部黄化	夜間落水 間断かん水



田に足を踏み込むと
気泡が発生



ワキによる下葉枯れ
（赤枯れ症状）



○藻類(アオミドロ)・表層剥離対策

気温の上昇に伴い藻類(アオミドロ)の発生が見受けられます。発生量が多いと、水温や地温の低下、苗のなぎ倒し等により初期生育を抑制することがあります。

アオミドロは以下の条件が揃うと増殖する傾向にあります。

- ①地力が高い(土中の有機物や窒素、リン酸が多い場合に多発)
- ②水温が生育に適している(水温が 20～25℃程度になると増殖する)
- ③日射量が多い(日照時間が長くなると光合成量が増加する)

対策

- ①一時的な間断かん水(水の入替え)により軽く干し土壌表面に落着かせる
- ②除草剤の土壌処理層が形成後された後は、浅水管理(2～3cm程度)とする
(深水にしていると藻類の発生密度が高まり苗のなぎ倒しの原因となる)
- ③発生量が多い場合は藻類(アオミドロ)に登録のある除草剤「モゲトン粒剤」を散布する
(注)モゲトン粒剤は、「つや姫」・「きぬむすめ特別栽培米」では1回のみ使用可能。



藻の発生量が多いほ



藻による苗のなぎ倒し



モゲトン散布前



モゲトン散布 2 日後※白く枯れる

4.中干し

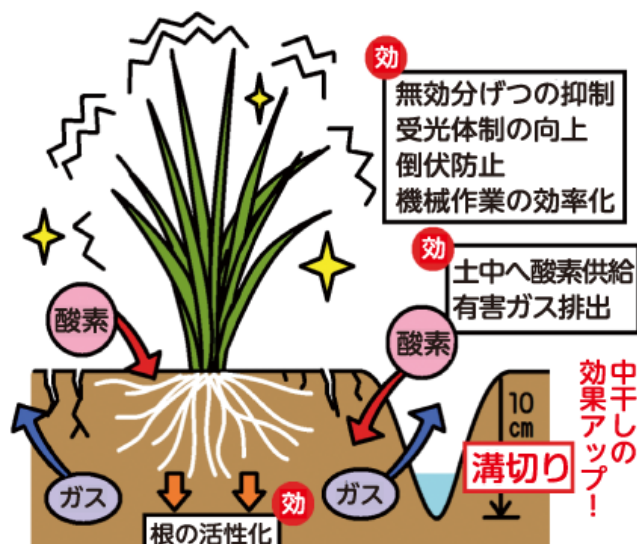
○中干しの効果

近年、斐川地域では茎数が増加し過ぎて過繁茂となり、葉身の受光態勢を悪くし、出穂後の多雨・寡照も相まって、登熟不良による網下米の増加と収量減が顕著となっています。また、茎が細くなって倒伏しやすくなることから、倒伏するほ場も増えています。このような状況からも、根の健全化と無効分げつを抑える「中干し」は最も重要な作業といえます。

土壌を乾かすと、余分な肥料窒素の吸収が抑えられ、茎数の過剰な増加を防ぎます。また、土壌中に酸素を供給することで、根は活性が高まり下層へ多く伸長するので倒伏しにくくなります。さらに、土壌が硬くなるとその後の作業や、コンバイン収穫も楽になります。

目標穂数の8～9割程度の茎数を確保したら、速やかに中干しを開始しましょう。

近年は、温暖化の影響で気温が高く茎数増加の日数も早くなっているので、中干しの適期を逃さないように注意しましょう。



○中干し開始時期

品種	茎数 (1株当り)
コシヒカリ	17本
つや姫	18～20本
きぬむすめ	18～20本

※5月上旬の田植え→目安: 田植え後 40～45日

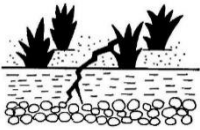
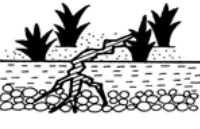
※5月中旬以降の田植え→目安: 田植え後 35～40日

植付け株数からみた品種別の平均1株目標穂数

株数／坪	60株	50株	45株
コシヒカリ	19	22	25
つや姫	19	23	26
きぬむすめ	18	22	25

60株＝18cm、50株＝21cm、45株＝24cm (2～3本植えとして)

○中干しの目安

	中干し期間	中干しの程度	
排水が良好なほ場	5～7日	田面が軽くひび割れる程度	
排水が悪いほ場	7～10日	田面が強くひび割れ、靴が汚れない程度	

※降雨が続く場合は中干しを長めに実施する。

○中干しの注意点

中干しが強すぎて土壤に大きなひび割れができると、逆に根が切断されて悪影響を及ぼします。また、中干し開始が早すぎると茎数不足による収量減・遅れると品質低下の原因となります。

基肥一発型肥料の場合、長期間の中干しをすると肥効が変化する場合があります。極端な中干しは避けてください。

○溝切り

中干し前後の水管理をスムーズに行うことができる有効な手段です。

専用の付属品や機械が必要であり手間のかかる作業ではありますが、一手間かけることにより今後の管理が容易となります。

○ケイ酸質資材の施用（6月中下旬頃）

ケイ酸は健全な稲体をつくるために重要な養分です。

稲の茎葉は硬くなり、いもち病菌をはじめとした病原菌の進入を防ぎ、耐倒伏性も高くなります。

品目	施用量	施用時期	備考
けい酸加里	20～30 kg/10 a	出穂前 35～45 日頃 (6 月中下旬 ～7 月上旬)	溶けにくいいため 中干し前の施用
スーパーケイソフラス			溶けやすいため 中干し後の施用
けい太くん	20 kg/30 a		水口流し込み施用

○中干し以降の水管理

生育ステージ	最高分げつ期 幼穂形成期 穂ばらみ期 出穂期 穂揃い期 成熟期									
	中干し 走水 間断かん水 湛水管理 間断かん水 落水									

【水管理イメージ図】

○中干し終了後は、急激に入水させると根傷みの原因となるため走り水を行ってから出穂期まで間断かん水を継続し、新鮮な水の入れ替えやガス抜きを行って根の活性化を促しましょう。

間断かん水とは

水を浅く張る → 自然に減水 → 2～3日干す → 水を浅く張る

○出穂期から穂揃い期は最も水が必要な時期になるため湛水管理を行いましょう。

○出穂期から穂揃い期に強風が吹く場合や、フェーン現象が心配される場合は深めに水をはり、稲体を守りましょう。

○穂揃い期以降は、間断かん水を行いましょう。間断かん水の期間は出穂後25日は必要です。根の活力を維持するとともに収穫に近づくにつれて、かん水の回数を減らし、収穫に備えて土壌を少しずつ固めていきましょう。

○落水時期は収穫の7日前を基本としましょう。

玄米の大きさが決まるまでには、出穂してから約4週間かかります。

概ね最初の1週間で開花・受精、次の1週間で玄米の長さが決まり、その次の1週間で玄米の幅が決まります。最後の1週間で厚みが決まるため、早く落水した田んぼの米は最後の厚みが十分でなく、粒厚の薄い米になってしまいます。

登熟期間の水管理は湛水状態にするのではなく、出穂後は飽水（ほうすい）管理（水深 3～5 cm程度にかん水し、足跡に水が残る程度の自然落水の繰り返し）を行い、地固めをしながら玄米を太らせます。



田面の足型に水が残る程度には水分を保つ
(飽水管理)

5.残草対策

田植え後1ヵ月近く経過すると、気温・地温も上昇し一発除草剤を散布していても、ほ場によっては雑草が発生し始めます。雑草が残った場合、中・後期除草剤にて処理しましょう。

《町内で主に問題となる雑草》

ノビエ	ホタルイ	クログワイ	オモダカ	イボクサ	クサネム
					
一年生 イネ科 種子繁殖	一年生 カヤツリグサ科 種子繁殖	多年生 カヤツリグサ科 塊茎繁殖	多年生 オモダカ科 塊茎繁殖	一年生 ツユクサ科 種子繁殖	一年生 マメ科 種子繁殖

6.病害虫について

初期害虫は、ニカメイチュウはやや多い、イネミズゾウムシは平年並～やや多い状況です。
(病害虫発生予察情報：6月2日発表)

いもち病は、初発が6月中旬～下旬となり、気象条件は低温・小雨・少照で発生します。

置き苗が感染源となることが多くなっていますので、置き苗は早急に除去して下さい。

紋枯病は、初発が6月下旬～7月初めに見られるようになり、茎数増加と高温多湿で発生します。特に**①昨年多発したほ場②箱処理剤に紋枯病のないものを使用したほ場③過繁茂のほ場**では注意が必要です。

ほ場の病害虫の発生状況を早期に把握することが重要です。その上で防除要否、防除時期、使用薬剤など、それぞれの場合によって適切な対策を講ずる必要があります。ご不明点がありましたら営農第一課までお問い合わせ下さい。

※「稲大將箱粒剤」には、いもち病・紋枯病・主要害虫に対する有効成分が含まれています。
基本的には発生を抑制していますが、過剰生育・過繁茂状態やほ場条件・気候によっては発生する場合があります。

斐川町一斉草刈運動の実施について

ウンカ・カメムシの生息する雑草地を一斉駆除します。

振興区・自治会一体となった取り組みをお願いいたします。

6月15日(日)～6月29日(日)の15日間

農薬適用一覧（移植水稻）

【中後期除草剤】

薬剤名	適用雑草名	使用時期	使用量 (10a 当り)	使用 回数	成分 数
ウィードコア 1 キロ粒剤	一年生雑草、 キシウスズメノヒエ、 多年生広葉雑草	移植後 7 日～ヒエ 4 葉期 但し、収穫 60 日前まで	1kg	2 回 以内	3
レブラス 1 キロ粒剤	水田一年生雑草、 マツバ、ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ、 ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、 クログワイ、コウキヤガラ、シズイ	移植後 14 日～ヒエ 4 葉期 但し、収穫 60 日前まで	1kg	1 回	4
レブラス ジャンボ	水田一年生雑草及び 多年生広葉雑草	移植後 14 日～ヒエ 4 葉期 但し、収穫 60 日前まで	小包装(パック) 10 個(400g)	1 回	4
ロイヤント乳剤 ※注①	一年生広葉雑草、ヒエ、 マツバ、ミスガヤツリ、ウリカワ、セリ、 アゼガヤ、オモダカ、エゾノサヤヌカサ、 シズイ、ナガエツルノゲイトウ	移植後 20 日～ヒエ 5 葉期 但し、収穫 45 日前まで	薬量：200ml 希釈水量： 25～100L	2 回 以内	1

※注①：ロイヤント乳剤は水田畦畔への登録もあります。

【藻類（アオミドロ・アミミドロ）対策】

薬剤名	適用雑草名	使用時期	使用量 (10a 当り)	使用 回数	成分 数
モゲトン粒剤	藻類(アオミドロ、アミミドロ)、 ウキクサ類	藻類、ウキクサ類の発生始～発生盛期 但し、収穫 45 日前まで	2～3kg	3 回 以内	1

(注)「つや姫」・「きぬむすめ特別栽培米」では 1 回のみ使用可能。

【イボクサ・クサネム対策】

薬剤名	適用雑草名	使用時期	使用量 (10a 当り)	使用 回数	成分 数
ノミニー液剤	クサネム	移植後 30 日～クサネムの草丈 40cm まで 但し、収穫 60 日前まで	薬量：50～100ml 希釈水量：100L	1 回	1
	イボクサ	移植後 30 日～イボクサの茎長 30cm まで 但し、収穫 60 日前まで			

※落水散布またはごく浅く湛水して散布（3～4 日）は入水させない。

【畦畔のイボクサ対策】

薬剤名	作物名	適用雑草名	使用量 (10a 当り)	使用時期	使用 回数	使用 方法	適用 場所
ロイヤント乳剤 ※注②	水稻 (水田畦畔)	一年生及び 多年生広葉雑草	薬量：200mL 希釈水量：25～100L	収穫 45 日前まで (雑草生育期)	2 回 以内	雑草 茎葉 散布	水田 畦畔
グラスショート	水田作物 (水田畦畔)	イボクサ	薬量：300～500mL 希釈水量：50～100L	生育期ただし、 収穫前日まで	3 回 以内	雑草 茎葉 散布	水田 畦畔

※注②：畦畔のイネ科雑草には効果が期待できません。

薬剤名	適用雑草名	使用時期	使用量 (10a 当り)	使用 回数	成分 数
クリンチャー 1キロ粒剤	ノビエ、 キシウスズメノヒエ、アゼガヤ	移植後 7 日～ノビエ 4 葉期 但し、収穫 30 日前まで	1kg	2 回 以内	1
		移植後 25 日～ノビエ 5 葉期 但し、収穫 30 日前まで	1.5kg		
クリンチャー ジャンボ	ノビエ、 キシウスズメノヒエ、アゼガヤ	移植後 7 日～ノビエ 4 葉期 但し、収穫 30 日前まで	小包装(パック) 20 個(1kg)	2 回 以内	1
		移植後 25 日～ノビエ 5 葉期 但し、収穫 30 日前まで	小包装(パック) 30 個(1.5kg)		
クリンチャーEW (展着剤加用)	ノビエ、 キシウスズメノヒエ、アゼガヤ	移植後 20 日～ノビエ 6 葉期 但し、収穫 30 日前まで	薬剤:100ml 水:25～100L	2 回 以内	1
トドメ MF 1 キロ粒剤	ノビエ、 キシウスズメノヒエ、アゼガヤ	移植後 14 日～ノビエ 5 葉期 まで但し、収穫 50 日前まで	1 kg	3 回 以内	1
トドメ MF 乳剤 (展着剤不要)	ノビエ、 キシウスズメノヒエ、アゼガヤ	移植後 14 日～ノビエ 7 葉期 まで但し、収穫 50 日前まで	薬剤:200ml 水:25～100L	2 回 以内	1
バサグラン粒剤 (ナトリウム塩) ※注③	一年生雑草(イネ科を除く)、 マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ、 ヘラオモダカ、オモダカ、クログワイ、 エゾノサヤスカグサ、シズイ	移植後 15 日～ 収穫 45 日前まで	3～4kg	1 回	1
バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	一年生雑草(イネ科を除く)、 マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、オモダカ、 ミスガヤツリ、ヘラオモダカ、クログワイ、 コウキヤガラ、エゾノサヤスカグサ、シズイ、 クサネム	移植後 15 日～ 収穫 45 日前まで	薬剤:500～ 700ml 水:70～100L	2 回 以内	1
クリンチャー バスME液剤 (展着剤不要)	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、 ウリカワ、ミスガヤツリ、ヘラオモダカ、 オモダカ、セリ、クログワイ、コウキヤガラ、 シズイ、キシウスズメノヒエ	移植後 15 日～ノビエ 5 葉期 但し、収穫 50 日前まで	薬剤:1,000ml 水:70～100L	2 回 以内	2
トドメバス MF 液剤 (展着剤不要)	一年生及び 多年生雑草	移植後 15 日～ノビエ 6 葉期 但し、収穫 50 日前まで	薬剤:1,000ml 水:70～100L	2 回 以内	2

※注③:落水状態(足跡に水が残っている程度で、雑草が水面上に出る状態)で散布する。

○無人航空機（ドローン）薬剤

薬剤名	適用雑草名	希釈倍数 使用量	散布液量 (10a)	使用時期	使用 回数	成分 数
クリンチャーEW (展着剤加用)	ノビエ	100ml	0.8～1.6L	移植後 20 日～ノビエ 4.5 葉期 但し、収穫 30 日前まで	2 回 以内	1
バサグラン・エアー 1 キロ粒剤	ウリカワ、オモダカ、 クログワイ、ヘラオモダカ、 ホタルイ、マツバイ、 ミスガヤツリ、一年生 雑草(イネ科を除く)	—	1kg	移植後 15 日～ 収穫 45 日前まで	1 回	1

※「つや姫」「きぬむすめ特別栽培米」の後期除草剤は、クリンチャー(1キロ粒剤・ジャンボ・EW)、バサグラン(粒剤・液剤・エアー1キロ粒剤)クリンチャーバスME液剤の中から原則1剤を1回のみ使用できます。